湖南市障がい者施策推進協議会　意見

資料１

1. 成人した後（将来に向けて）の利用できる障がい福祉サービスの情報提供が必要である。

学校を卒業してから情報を自らが取得できる機会が少ない。

1. 重層的支援を、一般的に誰もが意識できるようにしていかなければならないと思う。市民に浸透させていくには、わかりやすい言葉に置き変えてはどうか。例えば「みんなの居場所」など。
2. アンケート調査結果において「虐待やいじめを受けたことがありますか」の設問に対し、「無視されたり、叩かれるなどの暴力を受けたことがある」が一定の人数が上がっている。

これは少数であっても、障害理解が進んでいないことが一要因であると思われるため、市民に対し障がい理解が促進される施策を次期計画に反映してはどうか。

1. サービスにのらない相談を受ける窓口の設置（案内）について

職場でのトラブルなど、障害の特性によって一人一人違う問題を抱えている。

相談窓口になかなかたどり着けない人が多く存在している。

1. 見直し後の「みんなでとりくむつばさプラン」を障がいのある人もない人もみんなで具現化していくためには、周知方法を工夫し、自分事として考えてもらう機会が必要である。